

安曇野の春とともに歌い継ぐ 第43回早春賦まつりを開催



コーラスグループやアルパ・ミニハープの演奏と、早春賦や市歌などを合唱します。 問観光課 Tel71-2054



- 日時** 4月29日(水・祝) 10:00~
- 場所** 穂高川右岸早春賦歌碑前(雨天時は穂高会館)
- 費用** 無料
- その他** 会場には駐車場がありません。穂高会館発着の無料シャトルバスをご利用ください。詳細は市HP(上記2次元コード)からご確認ください。

コーラスグループと一緒に合唱に参加しませんか

早春賦まつりに向けた合唱練習を行います。早春賦や童謡など、おなじみの曲を歌います。1日だけの参加も可。どなたでもご参加いただけます。親子での参加も大歓迎です。

日 4月11日・18日・25日(土) 14:00~15:00

場 穂高公民館視聴覚室

費 無料 用 不要

無料シャトルバス時刻表【行き便】

穂高会館	▶ 穂高駅前ロータリー	▶ 早春賦歌碑東
① 9:10発	9:15着	9:25着
② 25発	30着	40着
③ 40発	45着	55着

※開催時間中も順次運行します。
※雨天時は穂高会館⇄穂高駅前ロータリーを運行します。
【帰り便】はイベント終了次第、順次運行します。

小説『安曇野』を読もう！

第12回 第4部(その一〇から一六) 木下尚江が主役

白井吉見文学館には石川三四郎の扁額「最善政府即最悪矣 不盡」(不盡は三四郎の雅号)があります。三四郎は大逆事件で衝撃を受け、8年間のヨーロッパ生活を選択したアナーキストです。帰国後、三四郎が語った「人間は生きよう、生きようとして死んでいく。平和を、平和をと呼びかけながら戦っている。自由よ、自由よと叫びながら囚われて行く」は、この小説の主題と云ってもいいのかもしれない。

三四郎に続くように木下尚江が登場し、彼の生涯が自身や良の言葉で語られていきます。子犬の絵がついた児童用帳面に尚江が記した数多くの歌には、妻・操子や母への思い、日常の情景が映し出されています。そしてその一三では、尚江の最期が丁寧に記されています。

尚江の物語の合間には、相馬愛蔵が熱望して設立した中村屋で働いている若者のための研修施設「中村屋研成学院」や、松



昭和12年に開設された研成学院の学習風景(新宿中村屋(株)提供)

中村屋は少年諸君のために学校を開いて、これに「研成学院」と命名した。私が幼年のころ学んだ小学校が「研成学校」であり、青年時代に同志と共に創立したのが「研成義塾」であって、私と研成といふ名には離れられない因縁があるらしい。(「商人として」昭和一三(一九三八年)右波書店)

見て触って体験 地域おこし協力隊のリアルを感じる



パラコードキーホルダー作りで交流

地域おこし協力隊の活動報告会が2月28日に穂高交流学習センター「みらい」で開かれました。当日は、現在活動中の山崎大輝さん(明科地域活性化担当)、栗原怜里さん(空き家活用担当)、松尾大さん(空き家活用担当)、瀬戸康弘さん(明科地域活性化担当)が、パラコードキーホルダーやマイはし作り、空き家相談など、それぞれの活動を生かしたワークショップなどを行いながら、約100人の来場者と交

流しました。瀬戸さんは「活動でお世話になったえべやの皆さんに卒隊の報告をしたら目を潤ませながら残念に思ってもらえた。これだけ地域の人に思ってもらえたことが活動の成果。今後も明科で暮らしていくので、この地域をもっと盛り上げていけるように山崎さんと協力しながら新たな立場で活動を続けていきたい」と約2年間を振り返りつつ、今後の抱負を語りました。

ゆたかな安曇野を目指した志と功績を共に 感謝と別れ

市は、昨年11月28日に逝去された太田寛前市長のお別れの会を3月7日に豊科公民館ホールで開きました。

式典には阿部守一知事ら関係者約250人が参列し、太田前市長が生前に残した功績をたたえたと共に、故人をしのびました。代表してお別れの言葉を述べた阿部知事は「太田さんは長野県にとってかけがえのない存在であり、私にとっては心から信頼できる副知事であった」。中山市長は太田前市長が実現した多くの政策に触れ「前市

長がまいた種を安曇野の大地に根付かせ、花を咲かし、豊かな実りとなるよう、職員一丸となって全力を尽くしていく」とあいさつしました。

会場では、遺影が飾られた祭壇に参列者が献花を行ったほか、太田前市長のこれまでの歩みを振り返るメモリアル映像を上映。式典後には一般献花が行われ、多くの市民や生前に親交があった皆さんが訪れました。会場で上映した映像は市公式YouTubeで公開しています。



太田前市長の遺影の前でお別れの言葉を述べる阿部知事

SDGsを知る・考える・行動する 市民公開講座



市はSDGsへの理解を深める市民公開講座を3月5日に市役所で開きました。当日は約30人が参加し、長野県立大学大学院ソーシャル・イノベーション研究科教授の秋葉芳江さんがSDGsの基本的な考え方や最新の動向を話しました。秋葉さんはヨーロッパを例に経済活動を維持しながら循環型社会を目指す

取り組みを紹介。「身近な暮らしから限りある資源を繰り返し使う方法を考えてほしい」と呼び掛けました。参加者は時折メモを取りながら、真剣な表情で聞き入っていました。市では、今後もSDGs未来都市として特色ある社会づくりを目指した取り組みを進めていきます。